

当中間期の業績の概況と通期の見通し

1．当中間期の業績の概況

当中間期における経済は、我が国においては依然として個人消費の低迷が続き、設備投資が大幅に落ち込み、金融システム不安の深刻化も重なり、極めて厳しい状況のもとに推移いたしました。一方、海外では、アジア経済の停滞が続き、好調だった米国経済も陰りを見せるなど世界経済全体が不透明感を増して推移いたしました。

このような情勢の中で当社は「顧客満足度の向上」と「競争優位」の確立をめざし、CS経営体制の充実、強化に努めてまいりました。

商品面では、高速ネットワークデジタル複合機「イマジオMF6550」をはじめとしたデジタル複合機「イマジオMF」シリーズに加え、新ブランド名を「IPSiO（イプシオ）」としたカラーレーザープリンタやインクジェットプリンタなどを新たに投入し、ネットワーク対応商品の強化をはかってまいりました。生産面では、中国における生産子会社が今年8月より複写機用消耗品の一貫生産を開始し、日本、欧米にアジアを加え、複写機用消耗品のグローバルな供給体制が強化されました。

このように当社は新製品の開発、販売の拡大及び生産体制の充実、強化等に全社をあげて注力してまいりました。その結果、当中間期の業績は、国内での需要の低迷やアジア経済の低迷の影響を受けたものの円安による増収効果等により、グループ連結の売上高は7,084億円と前年中間期に比べ2.4%の増収となりました。しかしながら、利益面では、国内の売上高の伸び悩み、価格競争激化にともなう販売価格の下落等により、税引前利益は224億円と前年中間期に比べ30.5%の減益、中間利益は121億円と同じく7.8%の減益となりました。なお、当社単独では当中間期の売上高は3,552億円と前年中間期に比べ3.6%の減収となり、経常利益が196億円と前年中間期に比べ6.8%の減益となりました。また、投資有価証券評価損を特別損失に計上した結果、中間純利益は90億円と前年中間期に比べ22.5%の減益となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株当たり5円50銭と決定させていただきました。
(支払開始日12月10日)

2．通期の見通し

今後の見通しにつきましては、我が国経済は、政府の追加景気対策の効果が期待されるものの個人消費や設備投資に回復が見られないなど、なお暫くは厳しい状況が続くものと予想されます。さらに、為替動向も不透明感を増してきております。海外でも米国経済は先行き不透明感が強まっているなど世界的な経済情勢の悪化が懸念されます。

このような状況のもと、当社は、お客様の中で進む問題解決のためのオフィスソリューションに対するニーズへの積極的な取り組みをはじめとして販売及びサービス体制の整備をすすめるとともに新技術、新製品の開発に努めてまいります。さらに、資源の効率的な活用とコスト競争力の向上を図り、長引く国内景気の低迷や世界的デフレ懸念など当社を取り巻く厳しい環境にも対応できる経営体制と事業基盤を確立してまいります。